

明日の「働く」を、
デザインする。

We Design Tomorrow. We Design WORK-Style.



産業構造審議会知的財産分科会意匠制度小委員会（第7回）

オフィス事業における 空間デザインの重要性と 制度整備の懸念点

株式会社イトーキ

はじめに

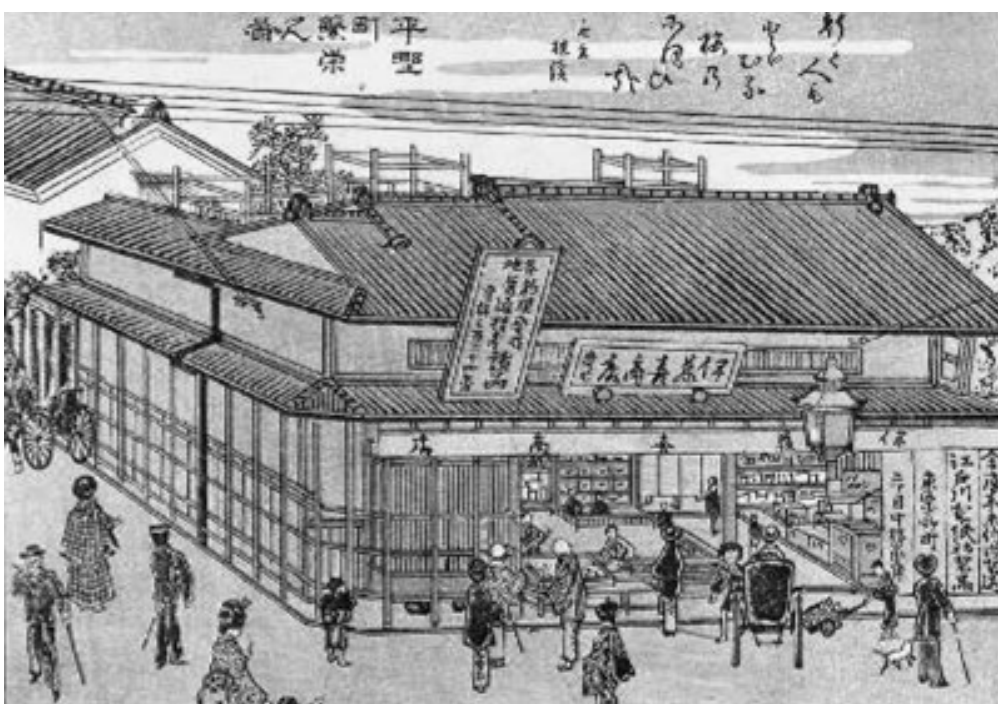
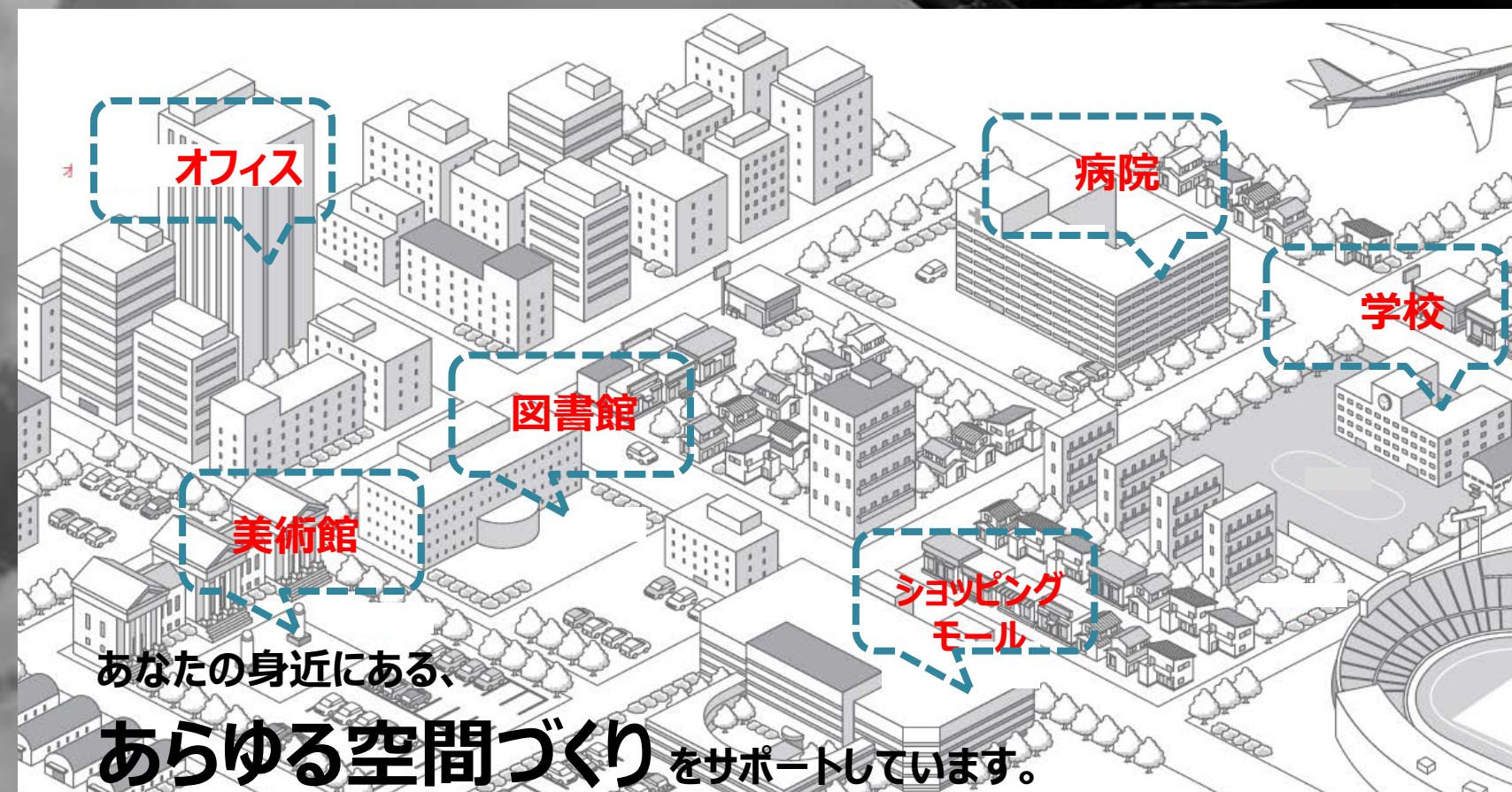
1. イトーキのご紹介

ITO KI

SINCE 1890

明日の「働く」を、 デザインする。

We Design Tomorrow. We Design WORK-Style.



1890 年

はじまりは、1890年に創業した伊藤喜商店。当時の発明品・特許品を広めようと、ホチキスや万年筆、魔法瓶などを発売。1913年には金銭出納機を独自に開発し、オフィス製品へと事業を拡大しました。世の中にないものを生み出す INNOVATION それがイトーキの原点です。

1975 年

日本で初めてオフィス プランの専門組織が発足

イトーキが「オフィスプランセンター」を東京に開設。日本におけるオフィス計画の専門化とコンサルティング業務化のはじまり

50 10

国内拠点数

海外拠点数

1,964名

従業員数
(平成29年12月末現在)

128th

日本のワークスタイルを提案して128年

▶ オフィス関連事業【オフィス空間】

ワークステーションシステム、デスク、ローパーティション、事務・会議用チェア、ミーティング用チェア、テーブル、アメニティ・リフレッシュ用家具、会議・視聴覚用家具／設備、システム収納家具、収納家具、ロッカー、金庫、役員用家具、応接用家具、ロビー用家具、カウンター、オフィスアクセサリー、ファイル用品、工場・物流用家具、研究施設用家具、医療施設用家具、高齢者ケア施設用家具、学校施設用家具、文化・展示施設用設備、観覧・議場施設用家具、宿泊・福利厚生施設用家具、金融機関用家具



企業価値を高める
ハイレベルなオフィス環境を
多彩にサポート

▶ オフィス関連事業【公共空間】

人が関わるさまざまな
施設環境づくりを幅広く展開



▶ゾーニング関連事業

建材内装設備、床面設備、移動間仕切、可動間仕切、用途別間仕切、サインシステム、原子力・シールド設備

機能性に優れた
フレキシブルな空間づくりや、
高いシールド技術で
高度な安全性に貢献

震度6強から私たちを護る—。
それが高耐震間仕切Gの減災空間。

高耐震間仕切G



▶ 設備機器関連事業

情報システム機器、書架・物品棚・移動棚、工場・物流用設備、研究施設用設備、セキュリティ設備

先進技術を駆使した
信頼性の高いシステム設備
を提案



▶ パーソナル関連事業

学習用デスク・チェア、書斎用デスク・チェア、書棚、リビング家具、乳幼児遊具・家具、福祉・介護用品



**機能性、インテリア性に優れた
個性的なホーム用家具を
多彩に提供**

オフィス関連事業の 御紹介

イトーキのオフィスデザイン



②空間の
デザイン

③プロダクト
デザイン



①「働き方」の
デザイン



①働き方のデザイン

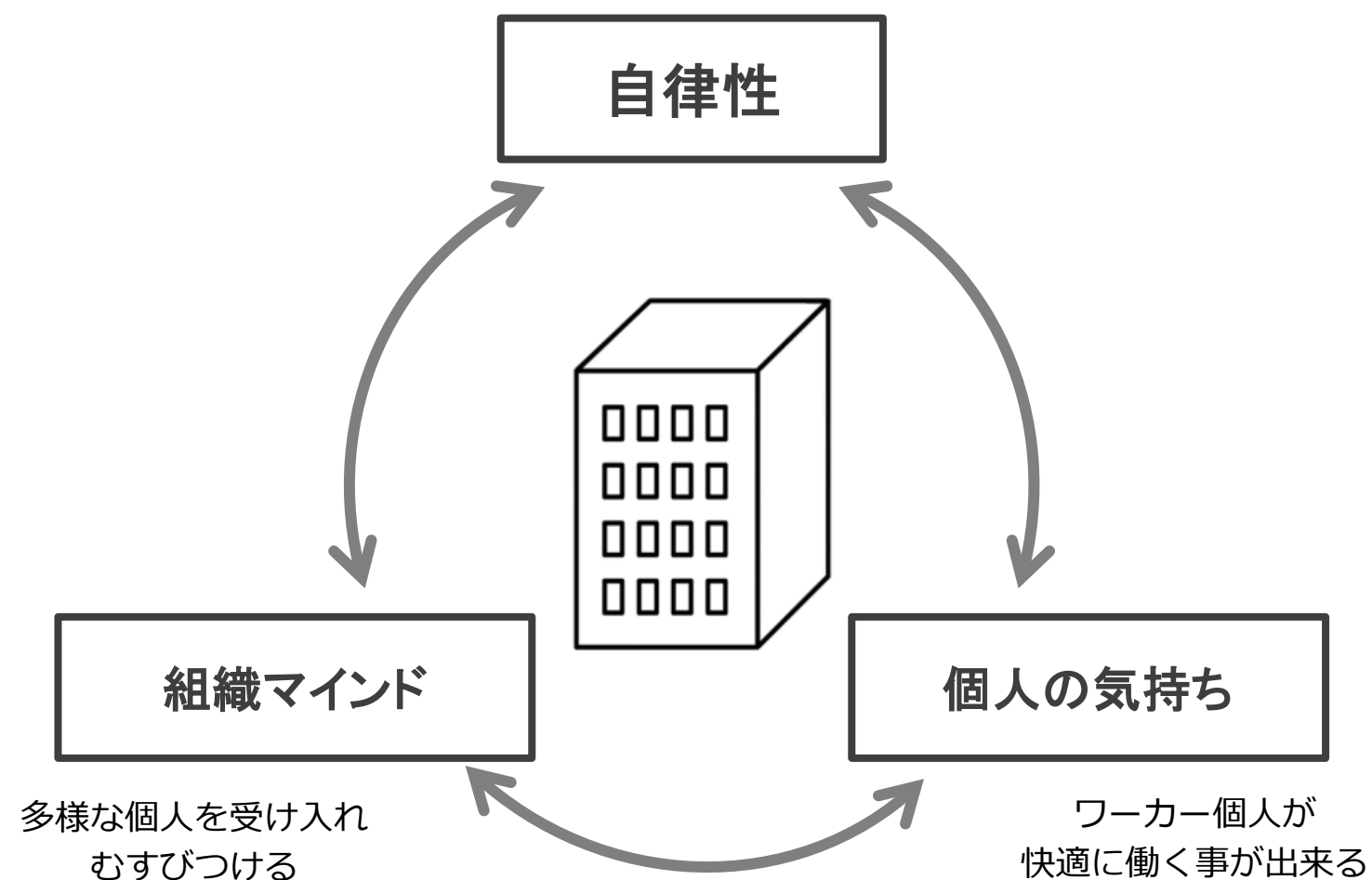
ここで働く、私が選ぶ
スタイル自在

ワークエンゲージメントの向上、生産性向上を目標とした
「働き方」の御提案

生産性のあがる「働き方」

とは？

ワーカーが「組織の中の個人」として
自律性を発揮し、多様な働き方を実現できる



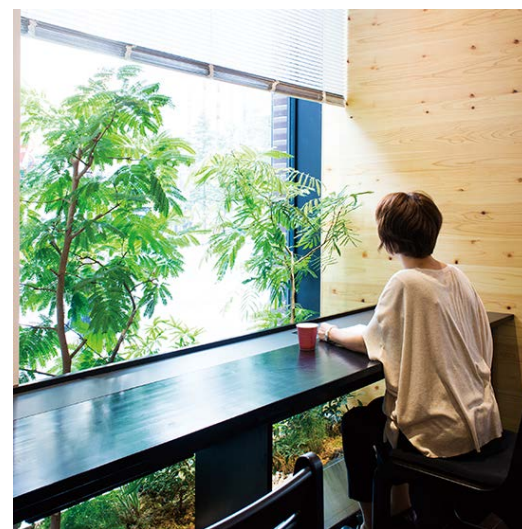
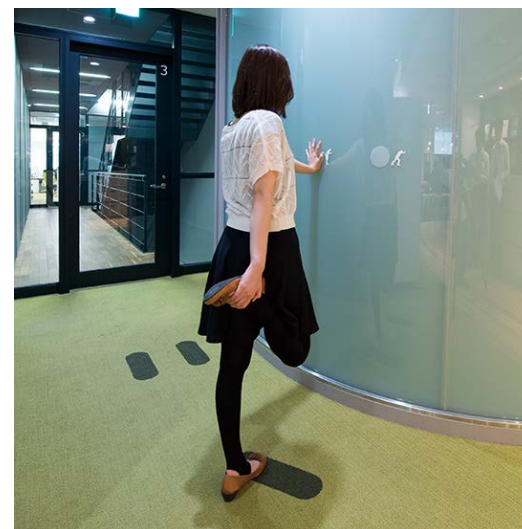
①働き方のデザイン

働きながらカラダとココロの健康づくり



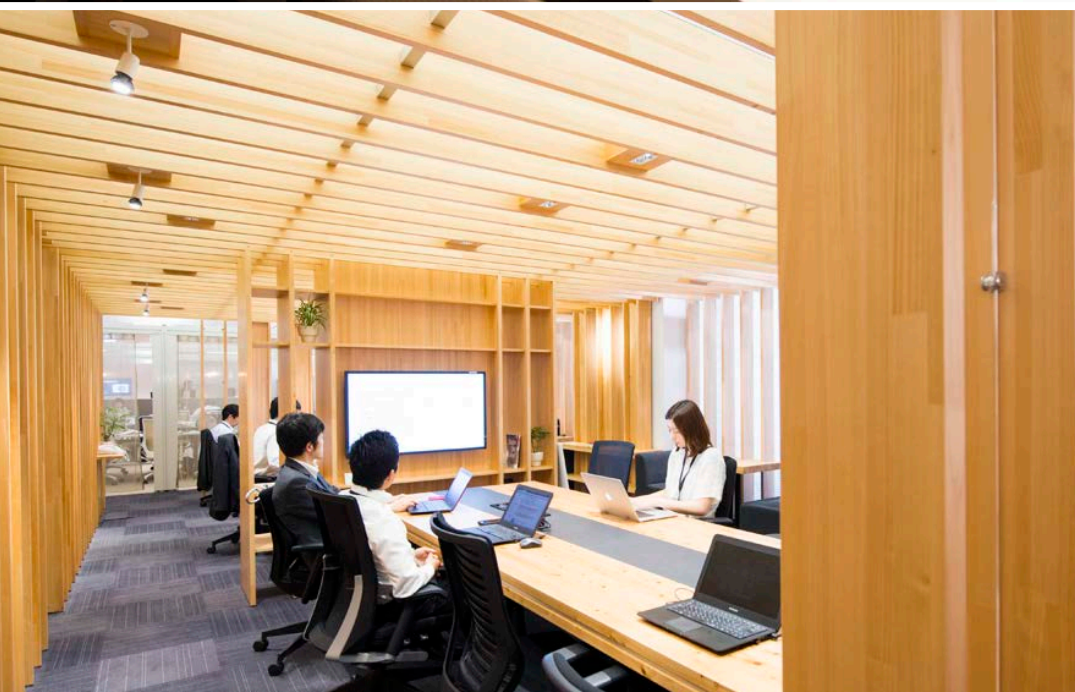
Workcise(ワークサイズ)とは、「Work(働く)」と「Exercise(健康活動)」を組み合わせた造語です。
屋外やスポーツジムなどで行う健康活動ではなく、たとえば立って仕事をする、誰かの席まで歩いていくといった“仕事にも健康にも良い行動”のことです。

働いて健康になる 「働き方」とは？



②空間デザイン 3分野のデザイン

ICT Design



Eco Design



Interior Design



③プロダクトデザイン

Spina

日本の心と美を宿した
無意識の心地よさ



2007年度グッドデザイン賞金賞(経済産業大臣賞)
(財)日本デザイン振興会主催

FLIP FLAP

“折り紙”の発想を椅子に応用。
3次元的に折れ曲がり、
長時間働いても疲れにくい新感覚チェア



iF Design Award 2017 (ドイツ)
iFデザイン賞2017 金賞受賞



reddot design award
winner 2017

reddot design award (ドイツ)
レッドドット・デザイン賞2017 受賞

es
エス

The evolutionary storage

シンプル、スマートを極めたスタイル
セキュリティと安全性を高めたキャビネットのありかた



GOOD DESIGN AWARD 2016
BEST 100

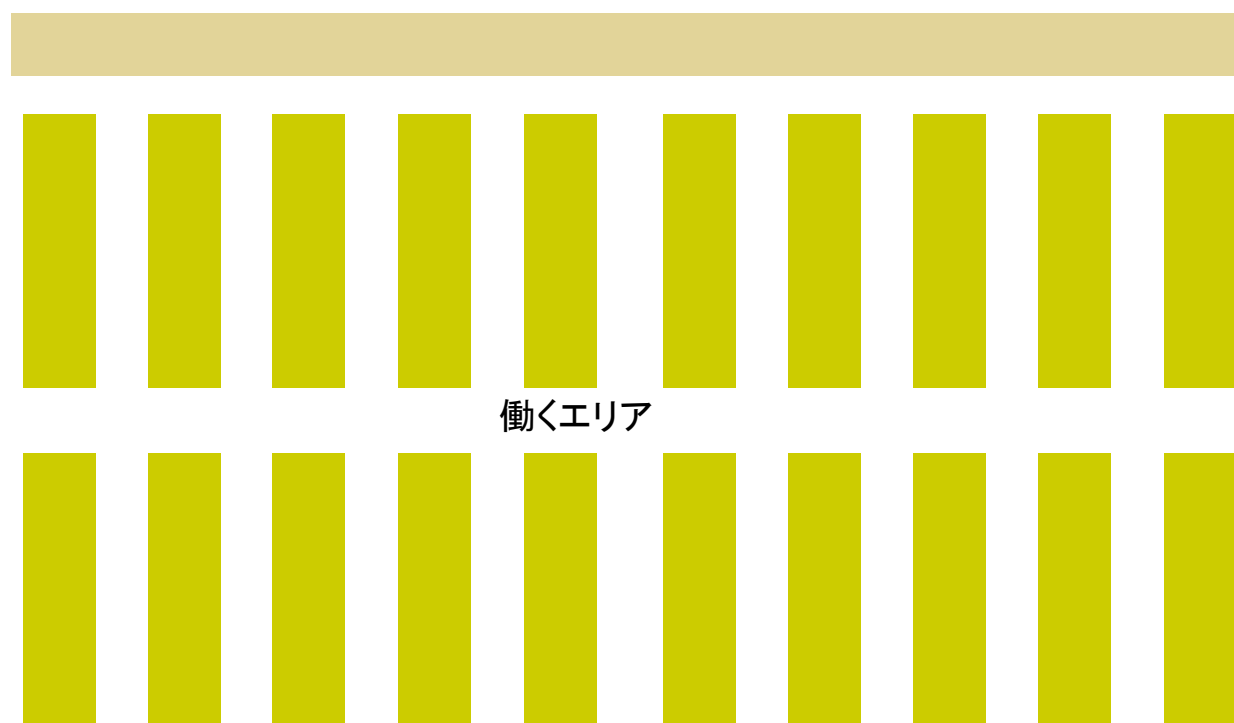
2016年度グッドデザイン受賞。
(GOOD DESIGN BEST 100)

現行法で 保護できない 空間デザインについて

CASE.0

レイアウトデザインは仕事の「仕方」を変化させ
空間の意匠性を向上させます。

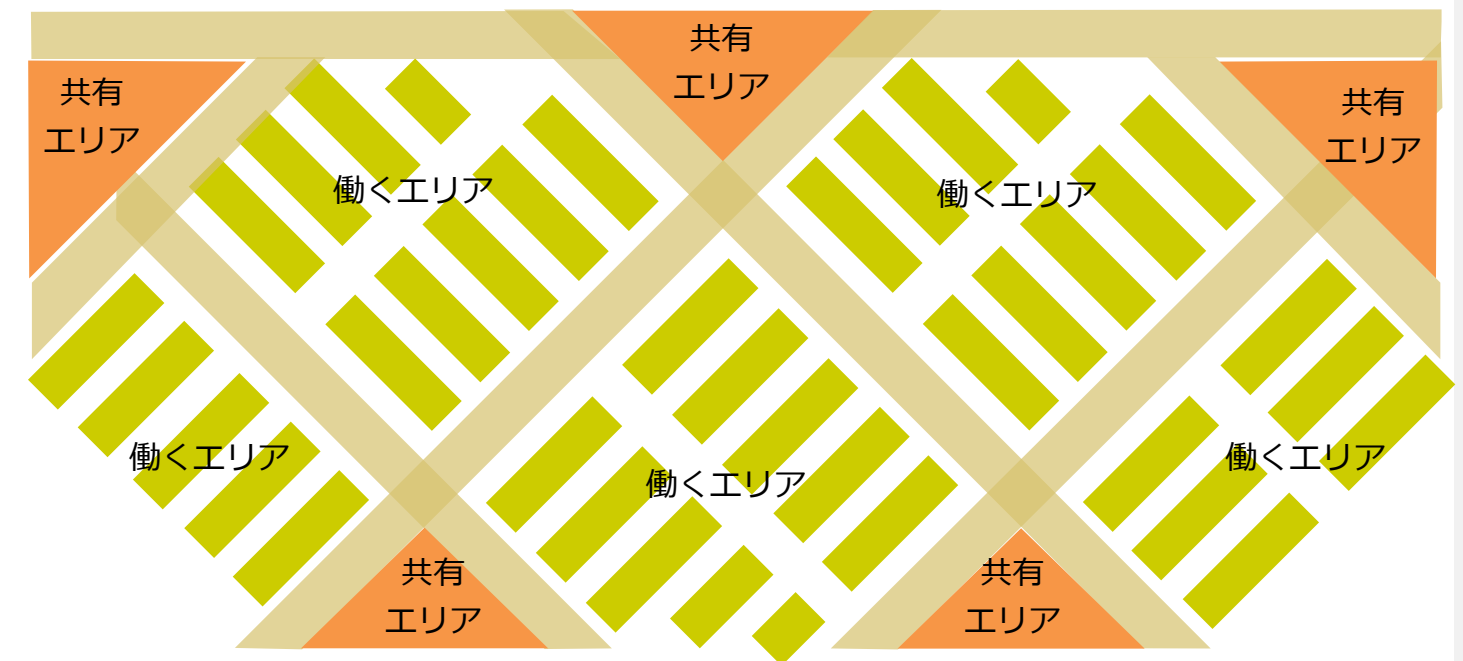
従来の島型対向型のレイアウト



一般的だが画一的なレイアウト
オフィス空間を効率的に運用可能だが
風景もワーカーの行動も単調に



デスクを45°回転レイアウト 今までに無い働き方の実現



デスクを45° 回転させることにより、

- オフィス動線の複雑化による出会い演出
- デッドスペースの活用
- ダイナミックに動く流動性の向上

CASE.1

価値創造を主眼においた新しいオフィスデザイン。

Mosaic Office

2007年

CASE.1

モザイクオフィス

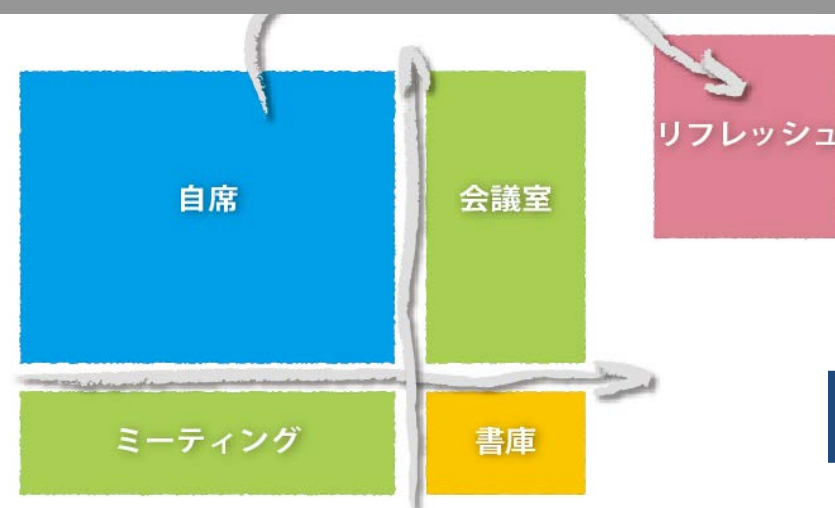
人と組織は、変わりつづける。そのときオフィスは？

将来変化を見据えたオフィスレイアウトデザイン

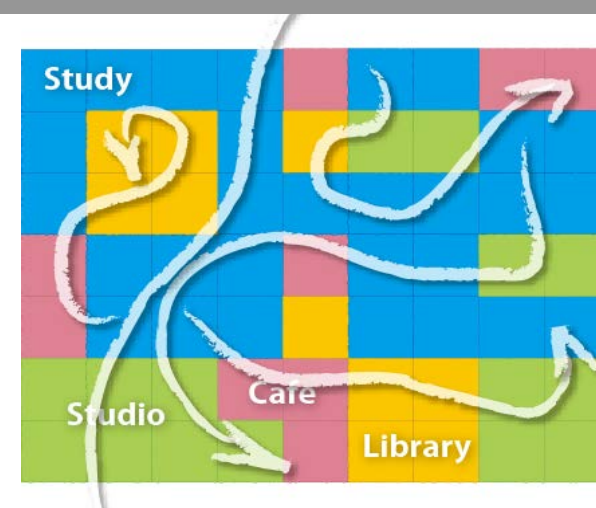
- ①統一されたグリッドを基本単位とする。
- ②そこへさまざまな機能と目的を持った場のグリッドを配置してオフィスを展開。

人員削減や組織変更、ワークスタイルの変化といった将来的な変化にも、最小限のスペース変更で 柔軟・迅速かつ低コストに対応できます。

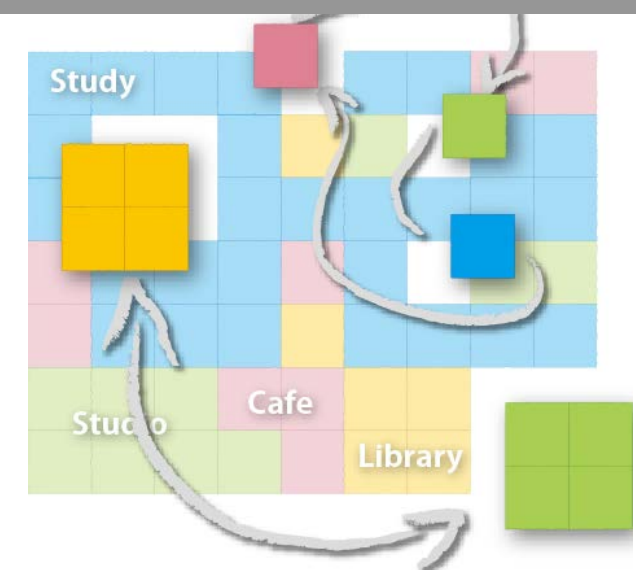
これからのオフィスレイアウト基準は、「ゾーン」から「グリッド」へ。



従来のゾーニング型レイアウトのオフィス



グリッドで構成されたオフィス



5年後、10年後もー

ゾーニング型による オフィス

共有の機能スペースと執務スペースは
動線と通路で切り分けられたゾーニング。
お互いが一定の距離をおいた関係性で
す。

グリッドによるオフィス

機能スペースがオフィスに溶け込み
流動性が高まりクリエイティビティが
向上する。

MOSAIC モザイク

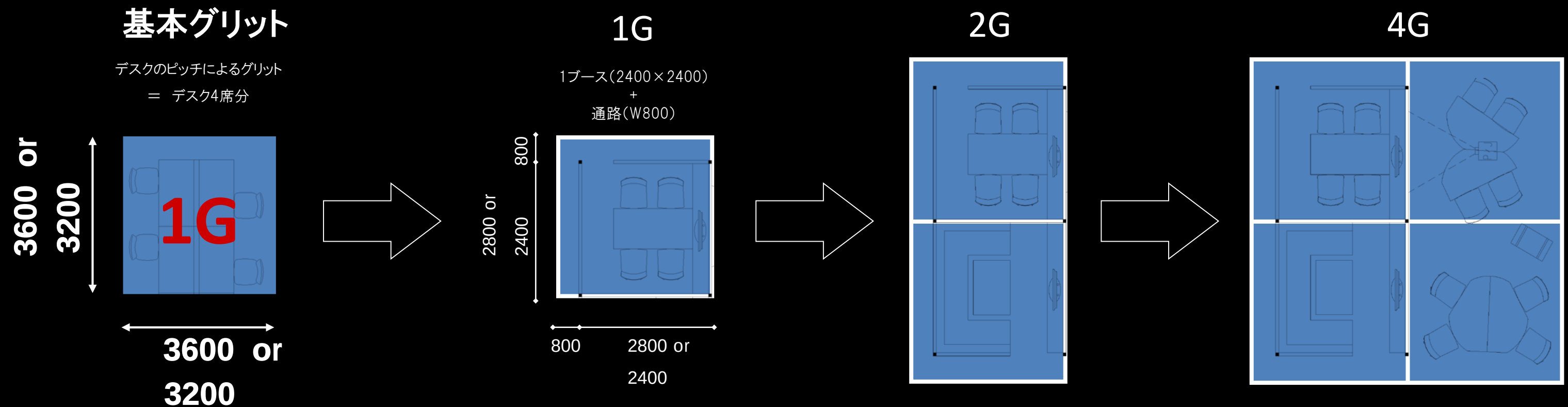
市場変化・経営目標等の変化に応じてレイアウトを自由に
変化させることが出来る。機能を自由にアタッチメントできる。

将来ワークスタイルが変化しても、統一されたモジュールな
ので、什器を廃棄せずに、ユニットを動かすだけでレイアウト
変更が可能です。

CASE.1

モザイクオフィス

- オフィスを構成する単位を構築
- 建築に適合したグリット(3200×3200・3600×3600)に注目
- オフィスに必要な機能をグリット内でパッケージ化

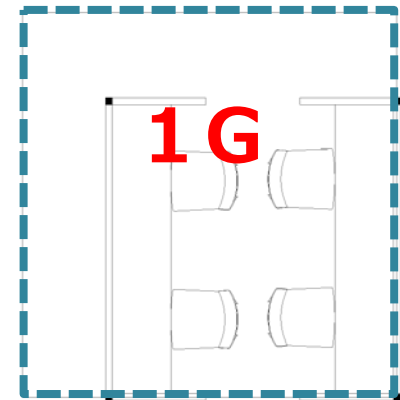


システム化することにより、オフィスの変化に柔軟に対応

CASE.1

モザイクオフィス

自席



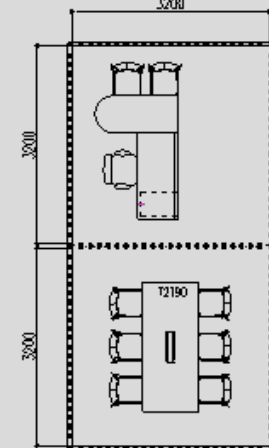
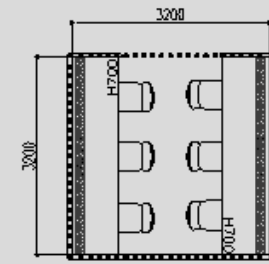
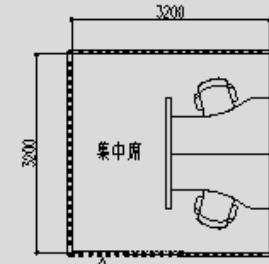
3.2×3.2



①集中ブース



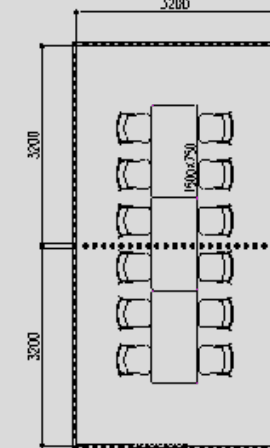
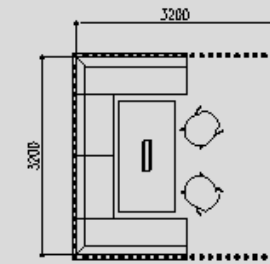
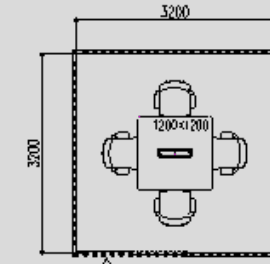
① コンセントレーション



②ミーティング



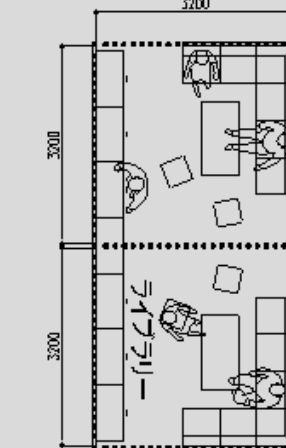
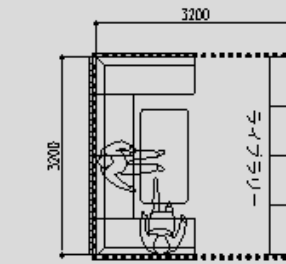
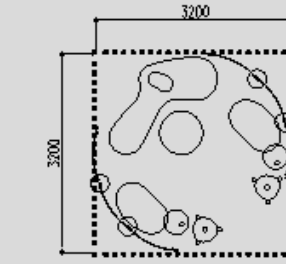
② ミーティング



③リフレッシュ



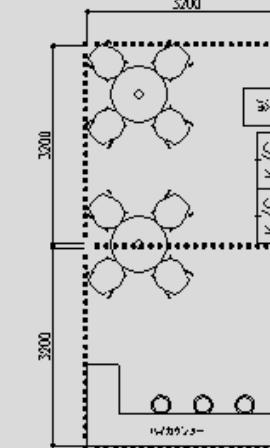
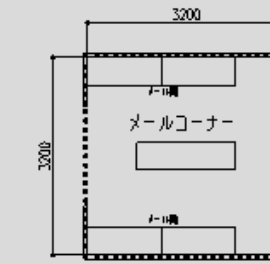
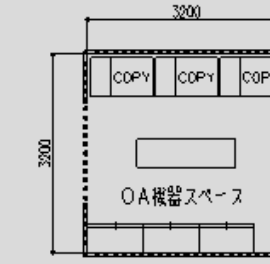
③ リフレッシュ



④コピー等



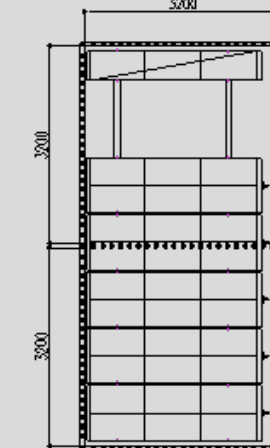
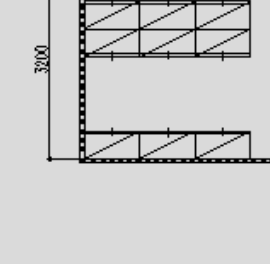
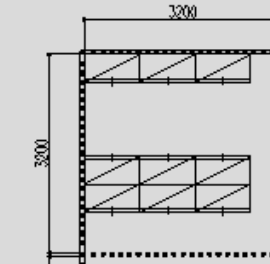
④ ユーティリティ



⑤収納



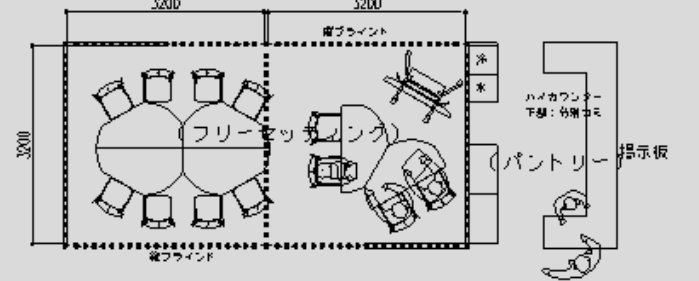
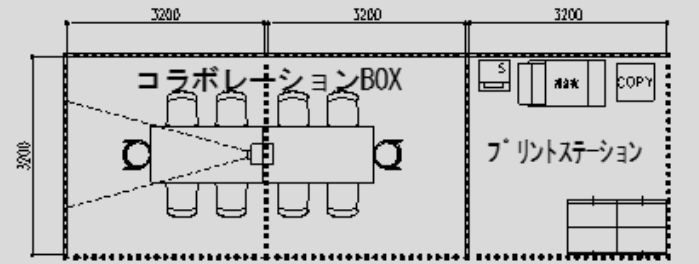
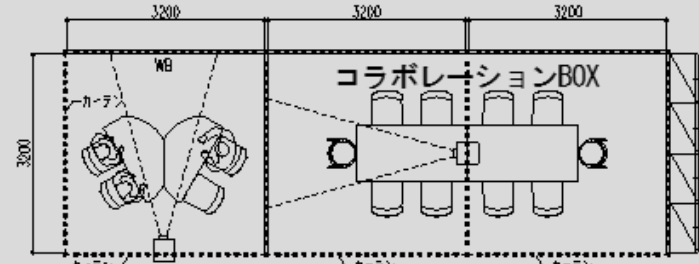
⑤ 収納庫



⑥コラボレーション



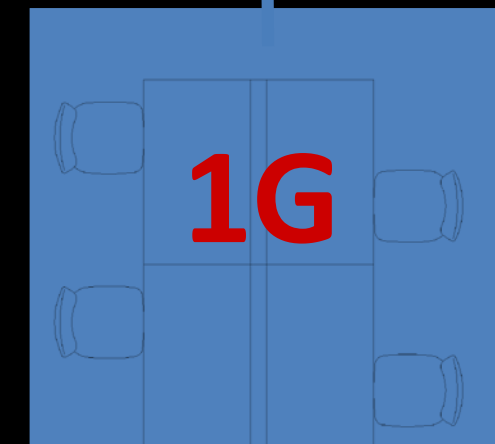
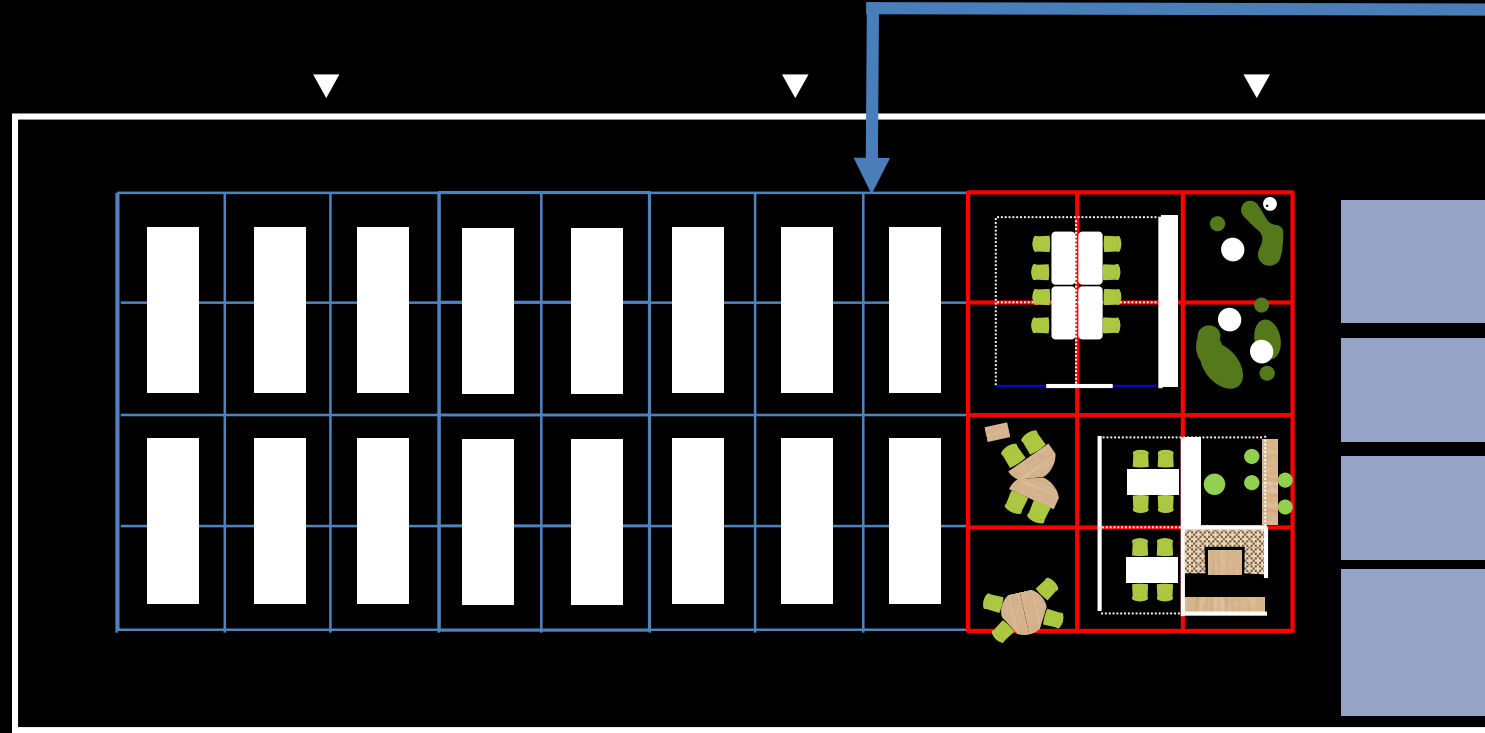
⑥ その他



CASE.1

モザイクオフィス

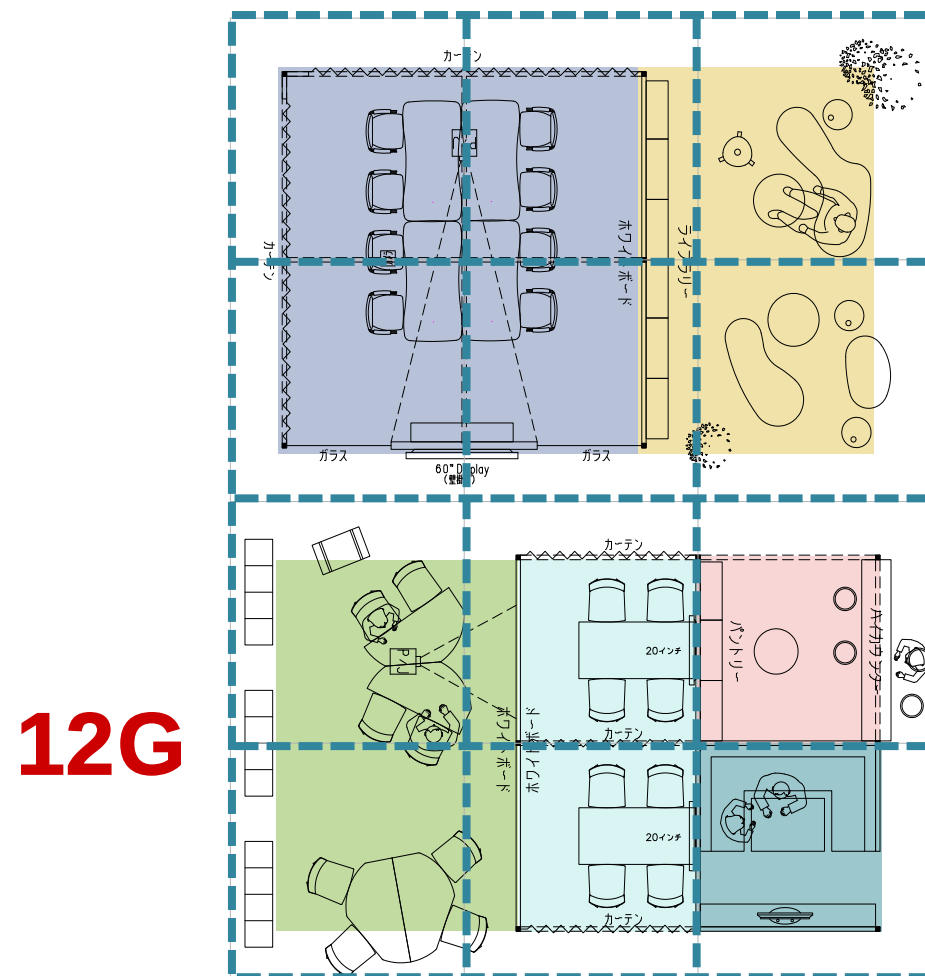
集中配置型：12G（48席分）を多目的スペースとして利用。



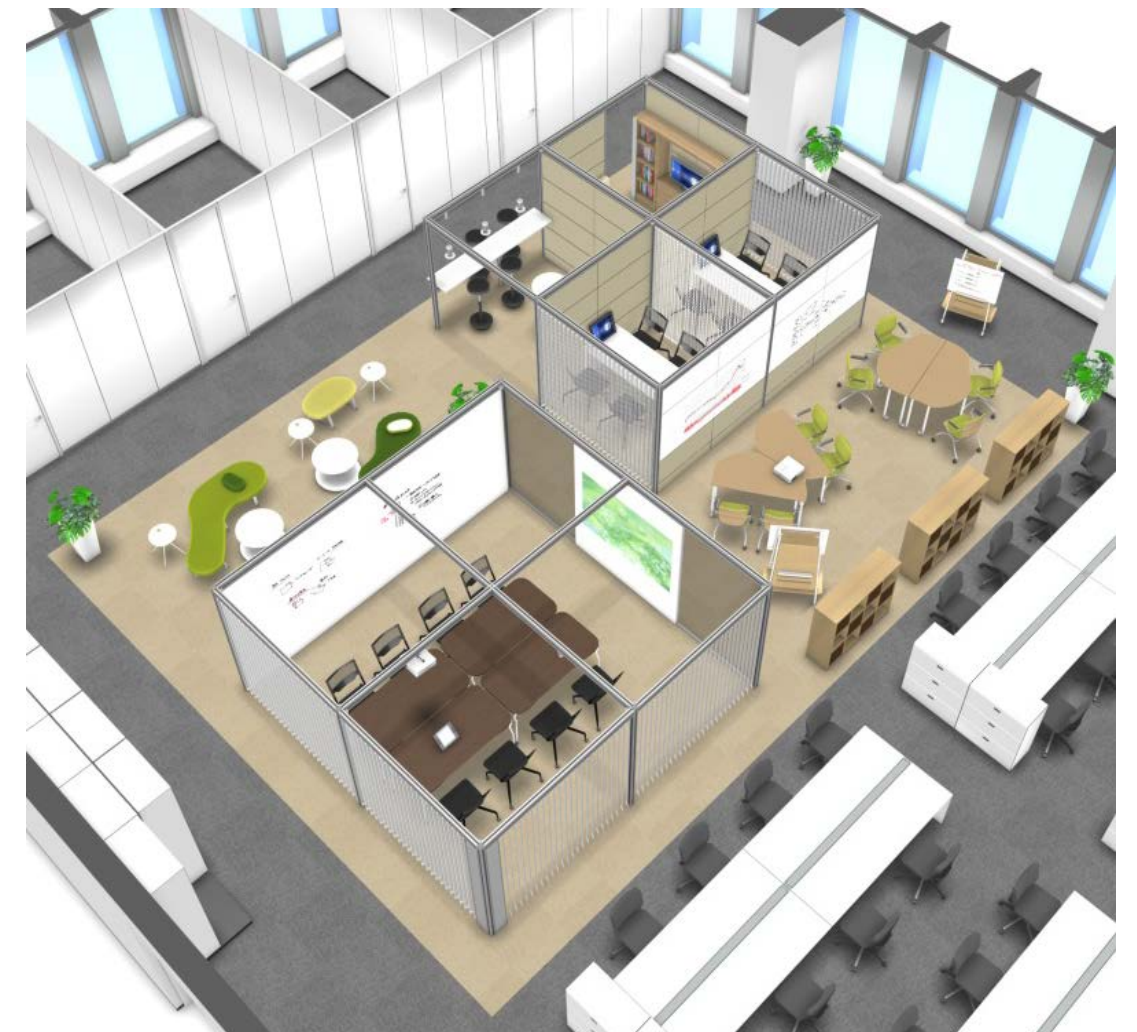
基本グリット

デスクピッチによるグリット
＝ デスク4席分

Layout



Image

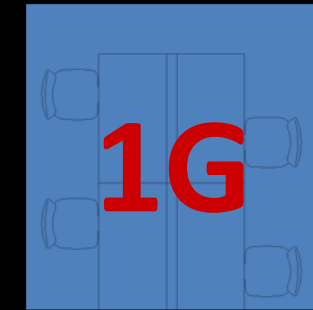
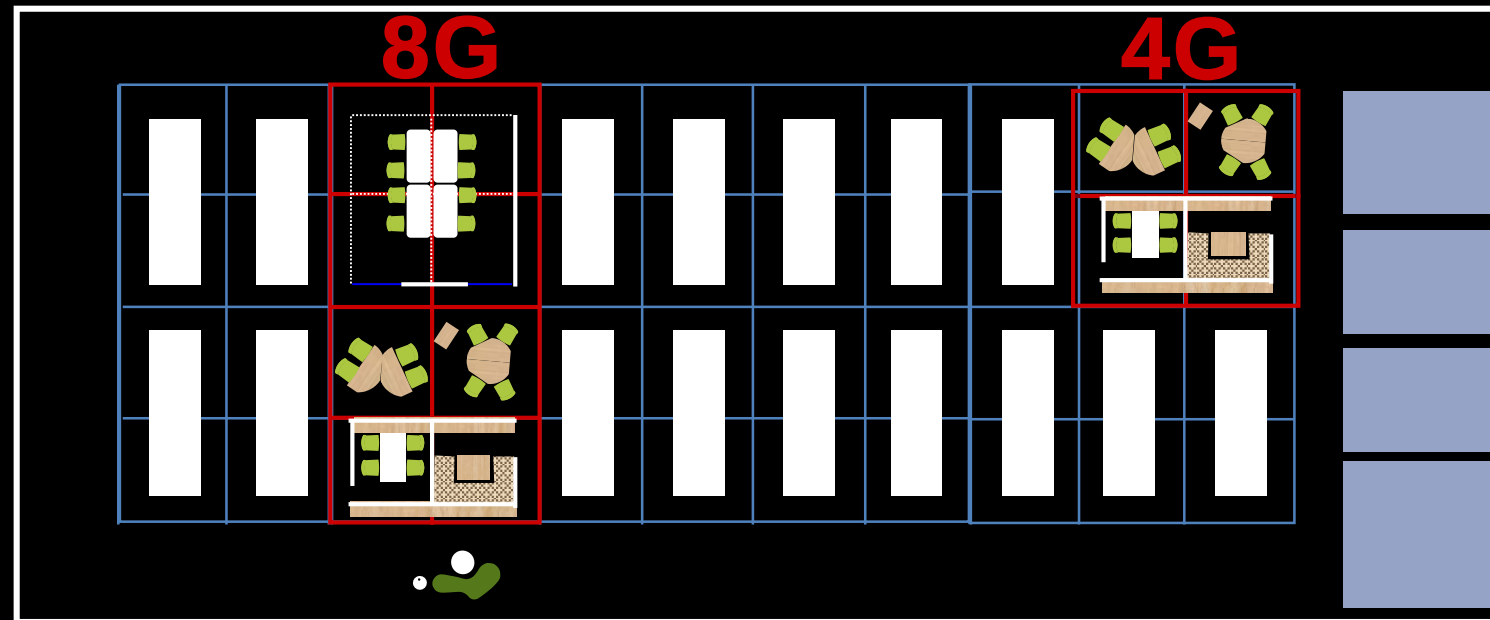


CASE.1

モザイクオフィス

分散(2か所)配置型 : 48席分(8G+4G)を多目的スペースとして利用。

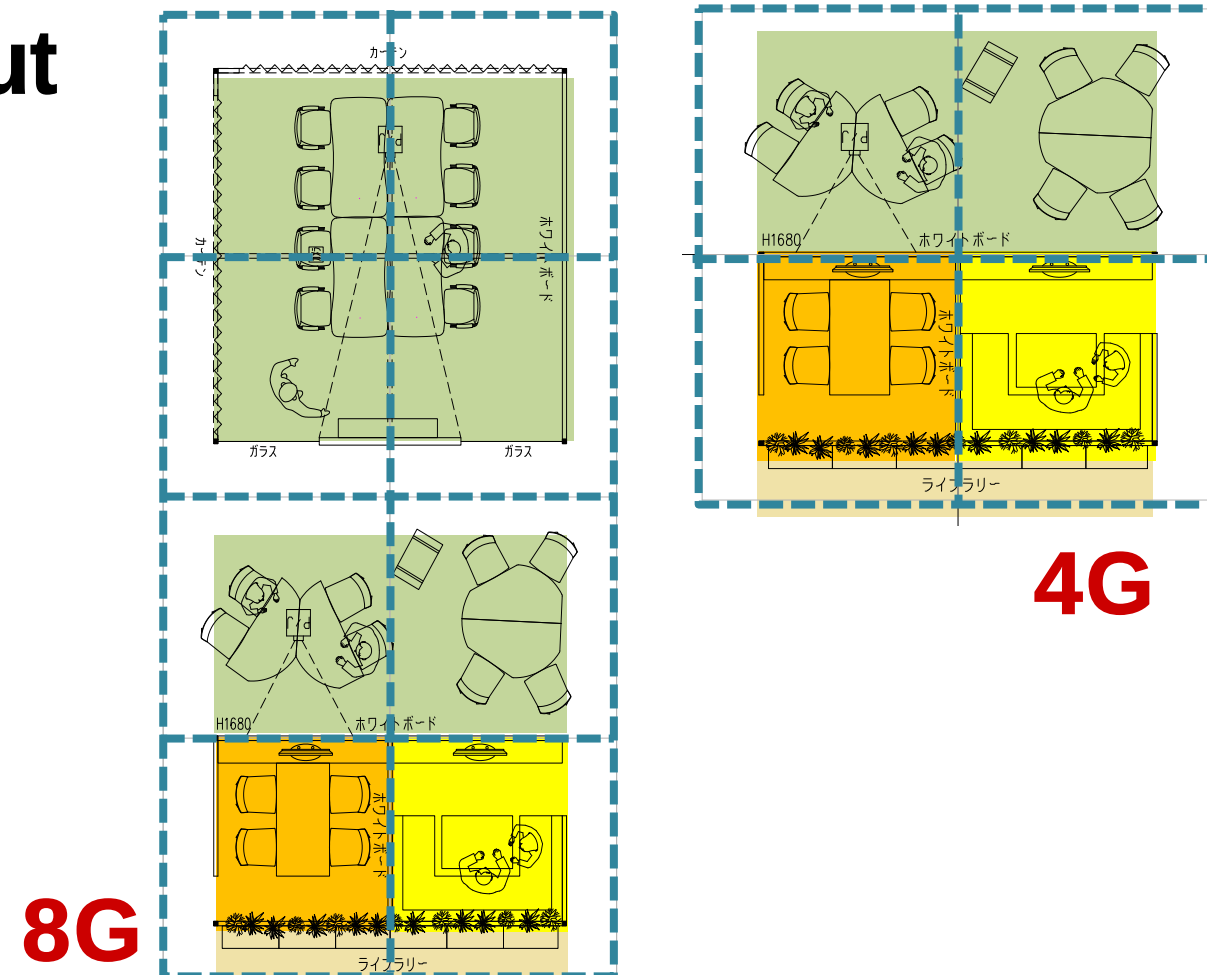
B-1



基本グリット

デスクピッチによるグリット
= デスク4席分

Layout



Image

8G



4G



CASE. 2

イノベーションを促進するオフィスデザイン。

Hybrid address.

2012年

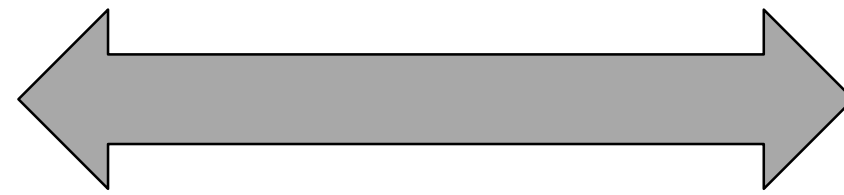
CASE.2

Hybrid address

個人の能力最大化と組織力を最大化するオフィスデザインでイノベーションを加速する。

ハイブリットアドレス = 島型対向式レイアウト × フリーアドレス

週4日は
フリーアドレス席



週1日は
組織ごとの固定席

基本はフリーアドレス。
交流し自律性を磨く。



1日は制限されたスペースで
固定席。情報を共有する。

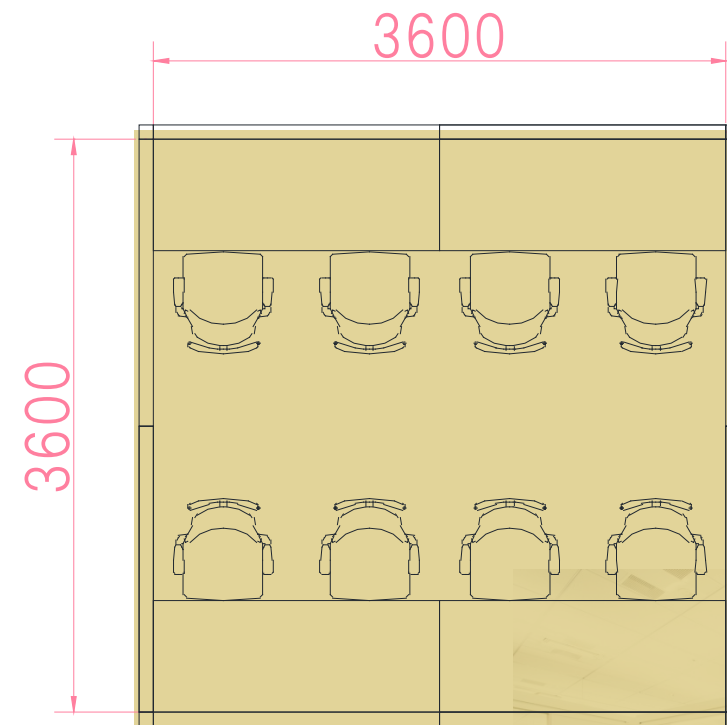


CASE.2

Hybrid address

CAMP

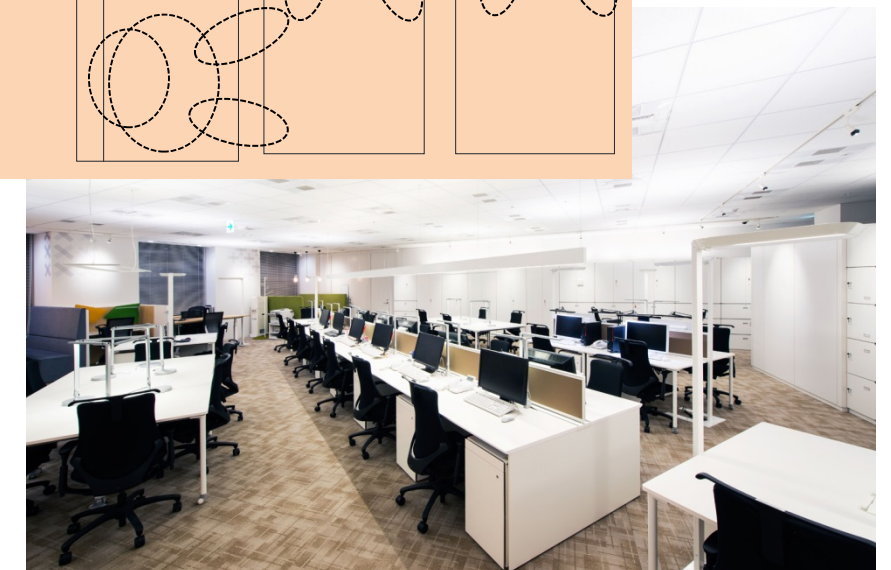
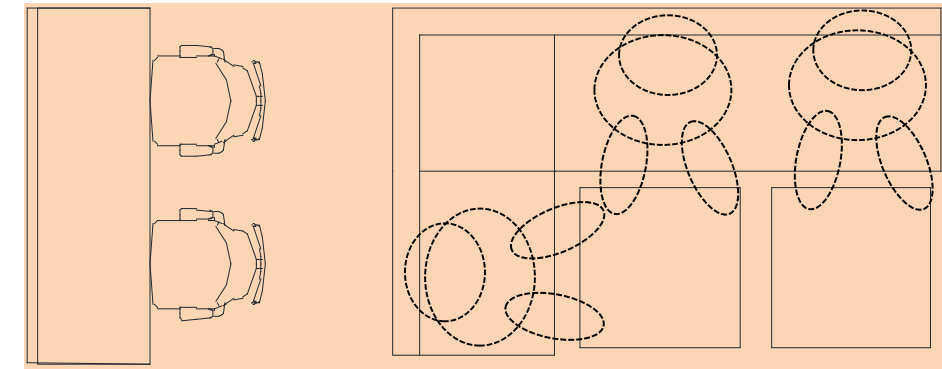
組織での文脈を理解し
チームでのパフォーマンスを
最大化する固定席



8名（人数比100パーセント）

FREE ADDRESS

個人の自律性を促し
パフォーマンスを
最大化する働き方



5名（人数比70パーセント）

7割比でオフィス設計を行いチーム力と個人力のバランスをとる。

CASE.2

Hybrid address

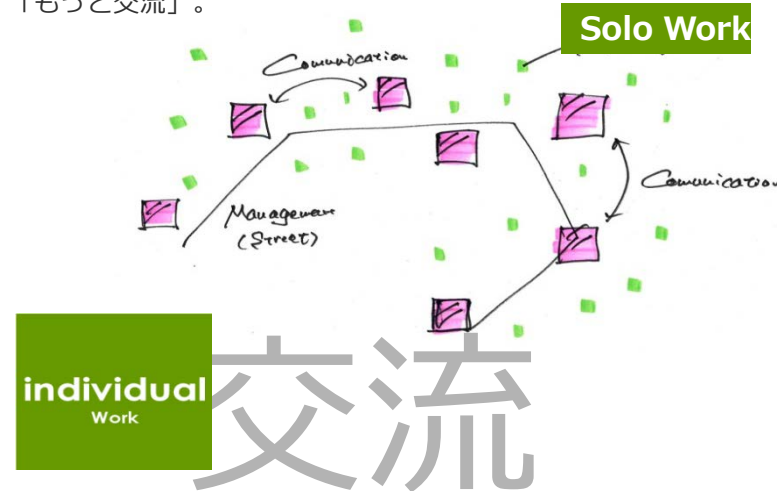
レイアウト例

家と広場があるオフィスデザインイメージ

4日 / 週

Free Address

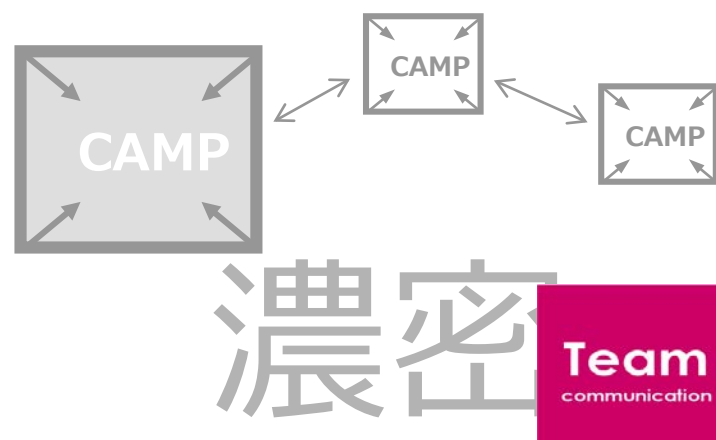
仕事内容に応じて、「NIWA」「COMMUNICATION」で
フリーアドレス。組織・情報の横断的なコミュニケーションで
「もっと交流」。



1日 / 週

CAMP

チームメンバーで集まって、「CAMP」に定住。
「もっと濃密」な組織内コミュニケーション・文脈共有。



法整備においての 懸念点

意匠の『要部』の判断

1) レイアウトの意匠登録についてはどこを要部と判断するのか

要部認定	メリット	デメリット
① オフィスレイアウトを構成する「 家具の配置そのもの 」の美観	オフィスレイアウトの創作思想を汲み取った知財保護を行いやすい	レイアウトを構成する家具の位置変更の自由度が低い（机やいすを数個除いた場合はどうか、机の角度を変えた場合はどうなるのか）のではないかな
② オフィスレイアウトを構成する「 各家具のデザインの集合 」が総合的にもたらす美観	プロダクトの延長となる推奨する使用態様についての知財保護が行いやすい	オフィスのレイアウトを構成する家具が特徴的であればあるほど、その一部を別の物に変えてしまうと、同じレイアウトであっても知財保護が及ばない可能性があるのではないかな

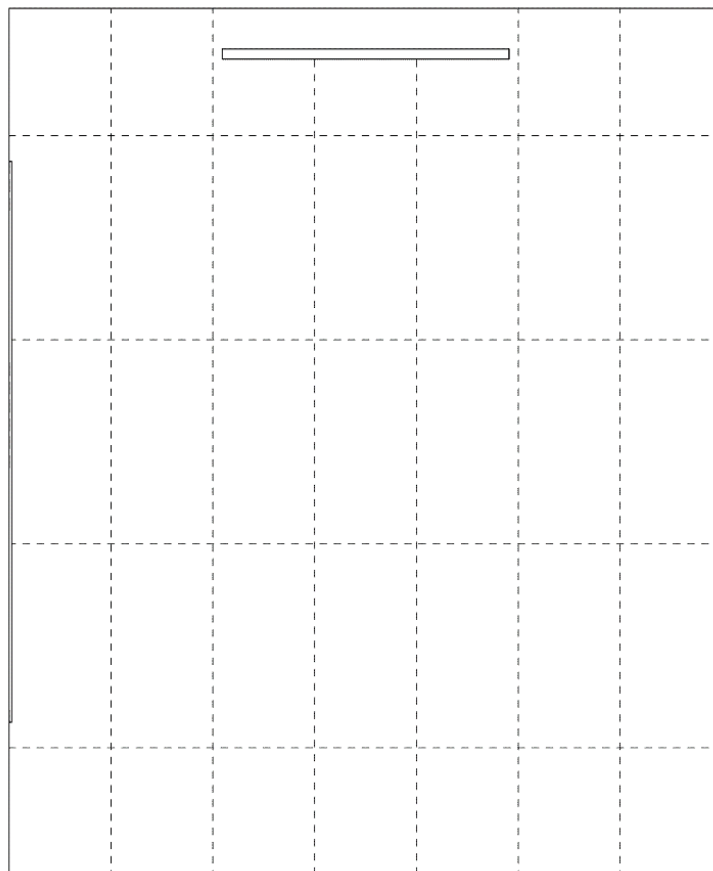
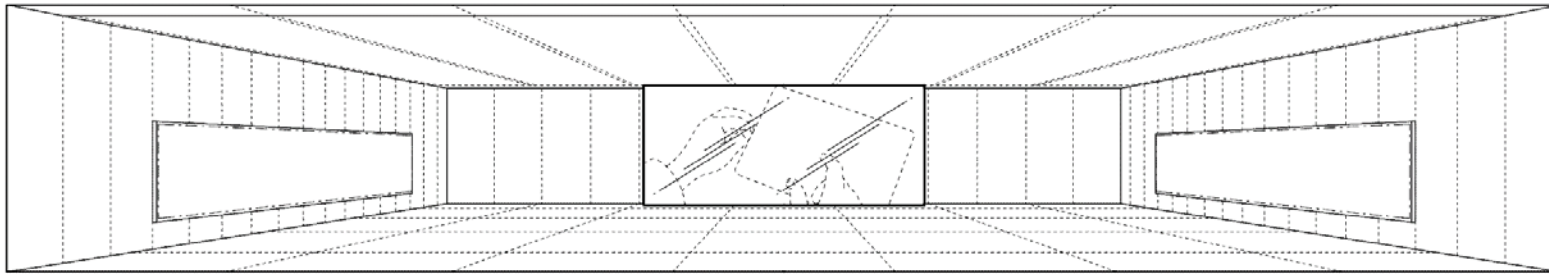
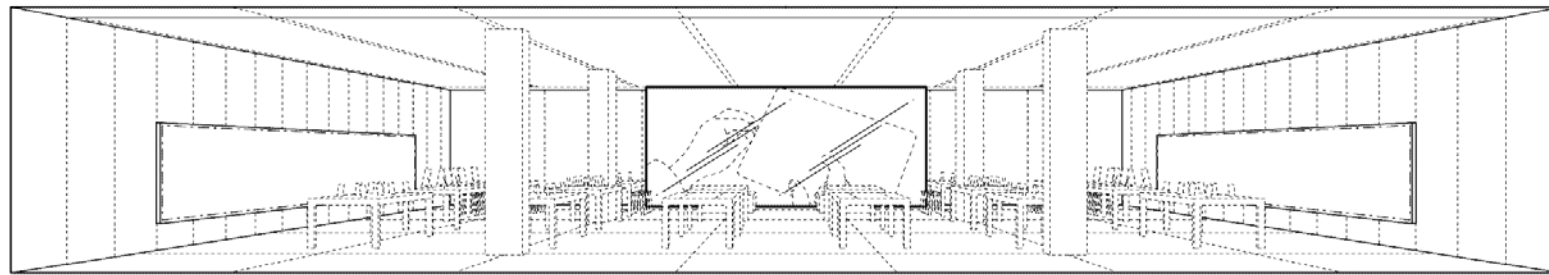
□ 「家具の配置そのもの」が要部なのか、それとも「各家具のデザインの集合」が要部なのかで、同じレイアウトでも意義が異なった意匠登録になる。要部の認定にあたりガイドラインのようなものが必要ではないか。

意匠の『要部』の判断

アメリカでの意匠登録の例

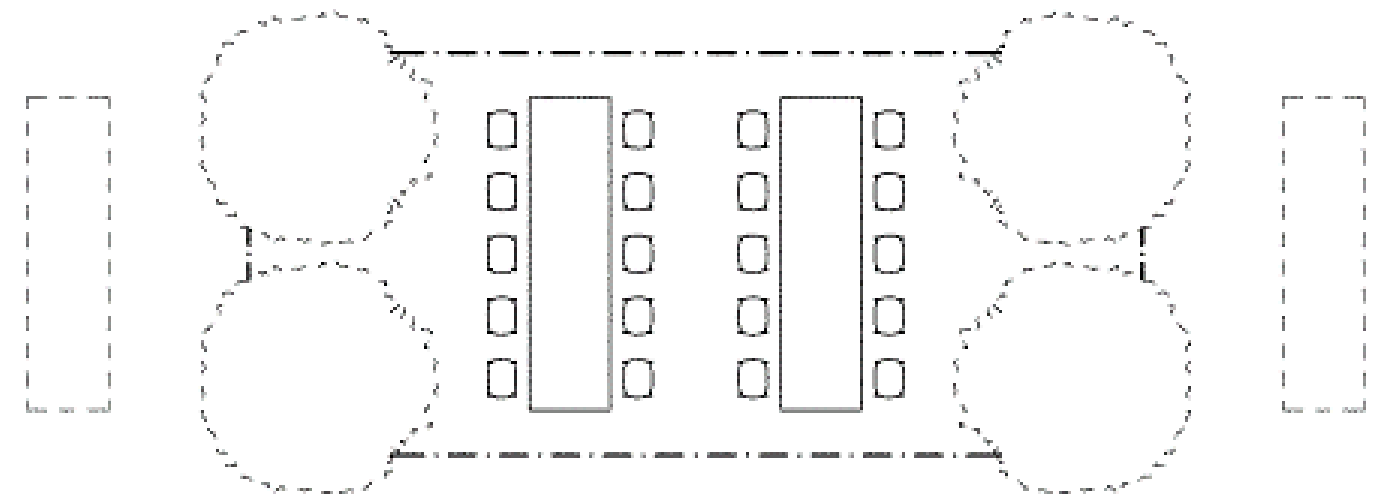
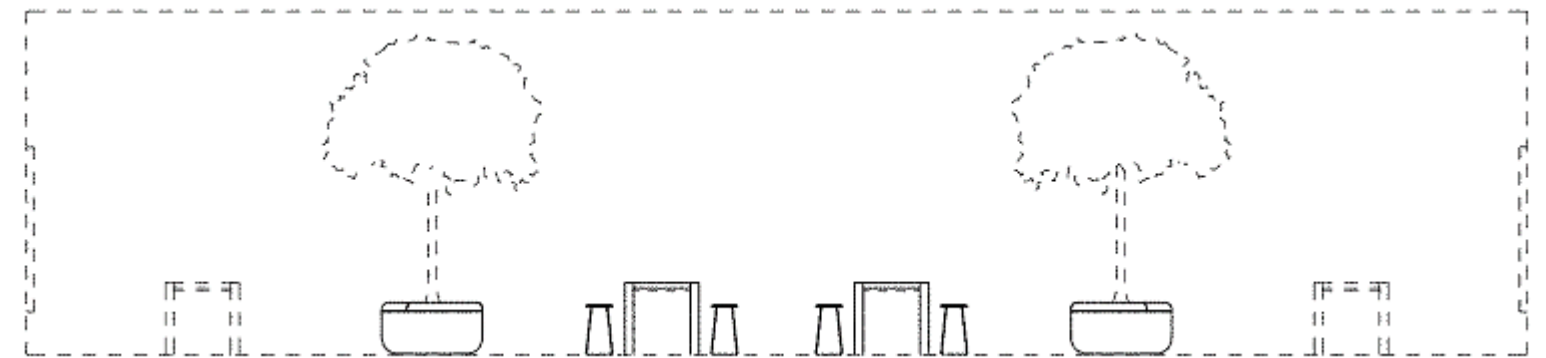
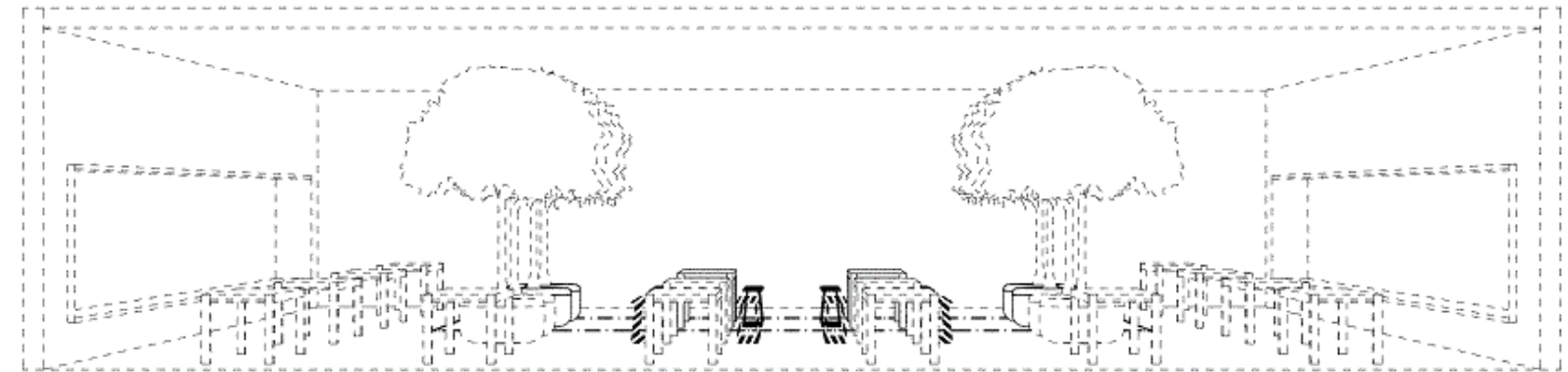
① このケースではモニターの配置が要部か

apple (USD774209S1)
ROOM



② このケースでは植栽、机、椅子の配置が要部か

apple (USD813411S1)
Room with retail arrangement

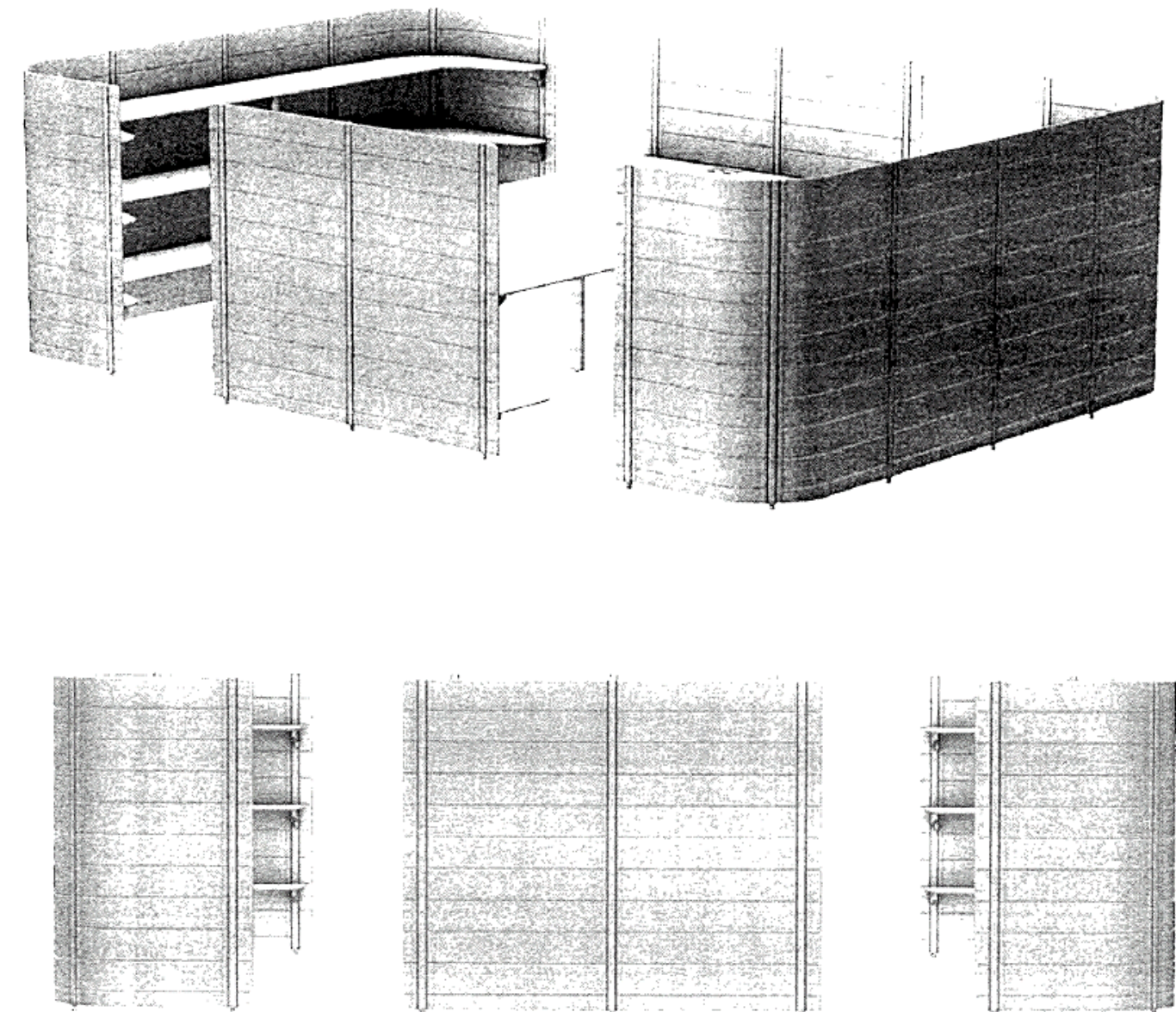
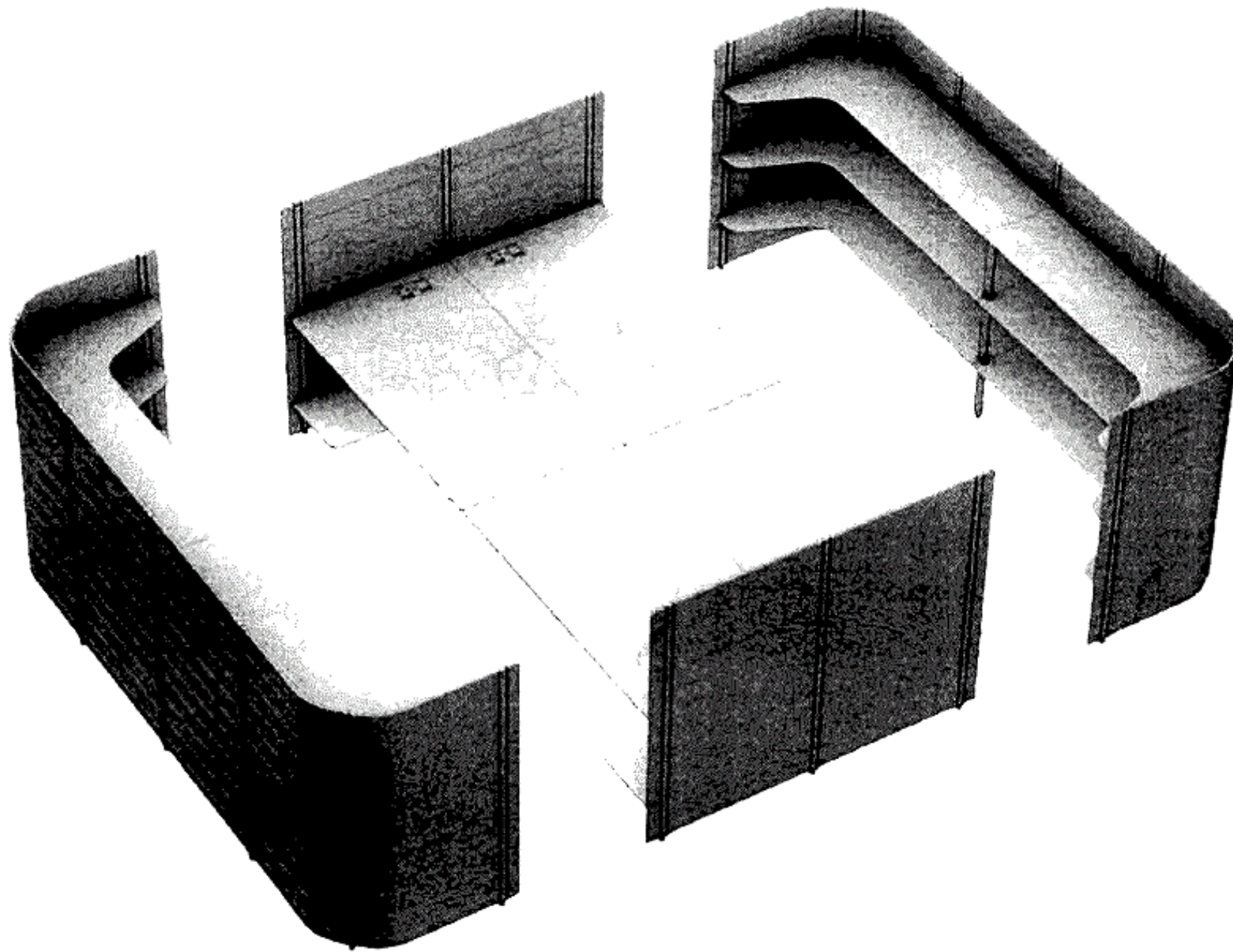


意匠の『要部』の判断

アメリカでの意匠登録の例

3

Vitra Patente AG(USD788495S1)
Work station



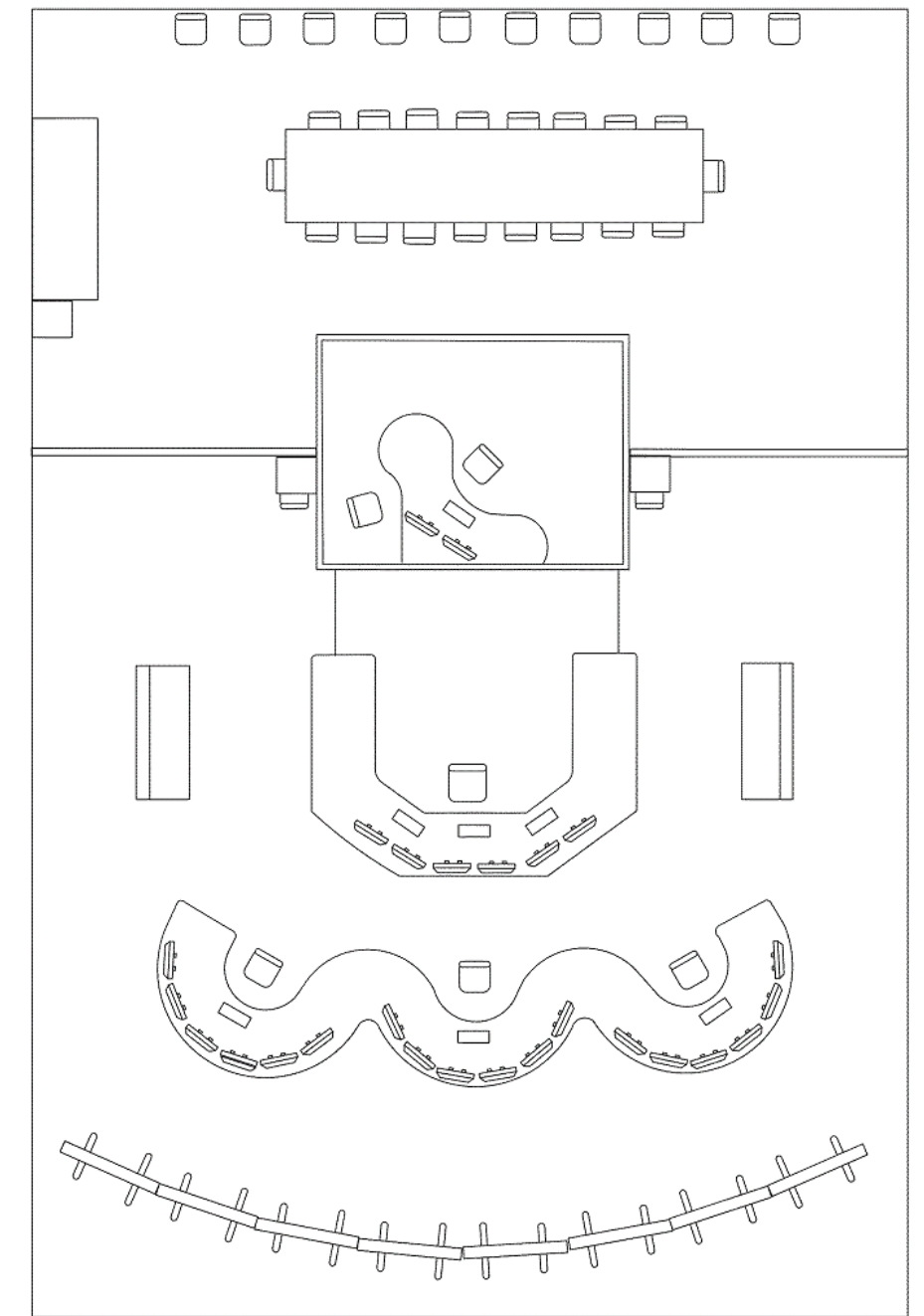
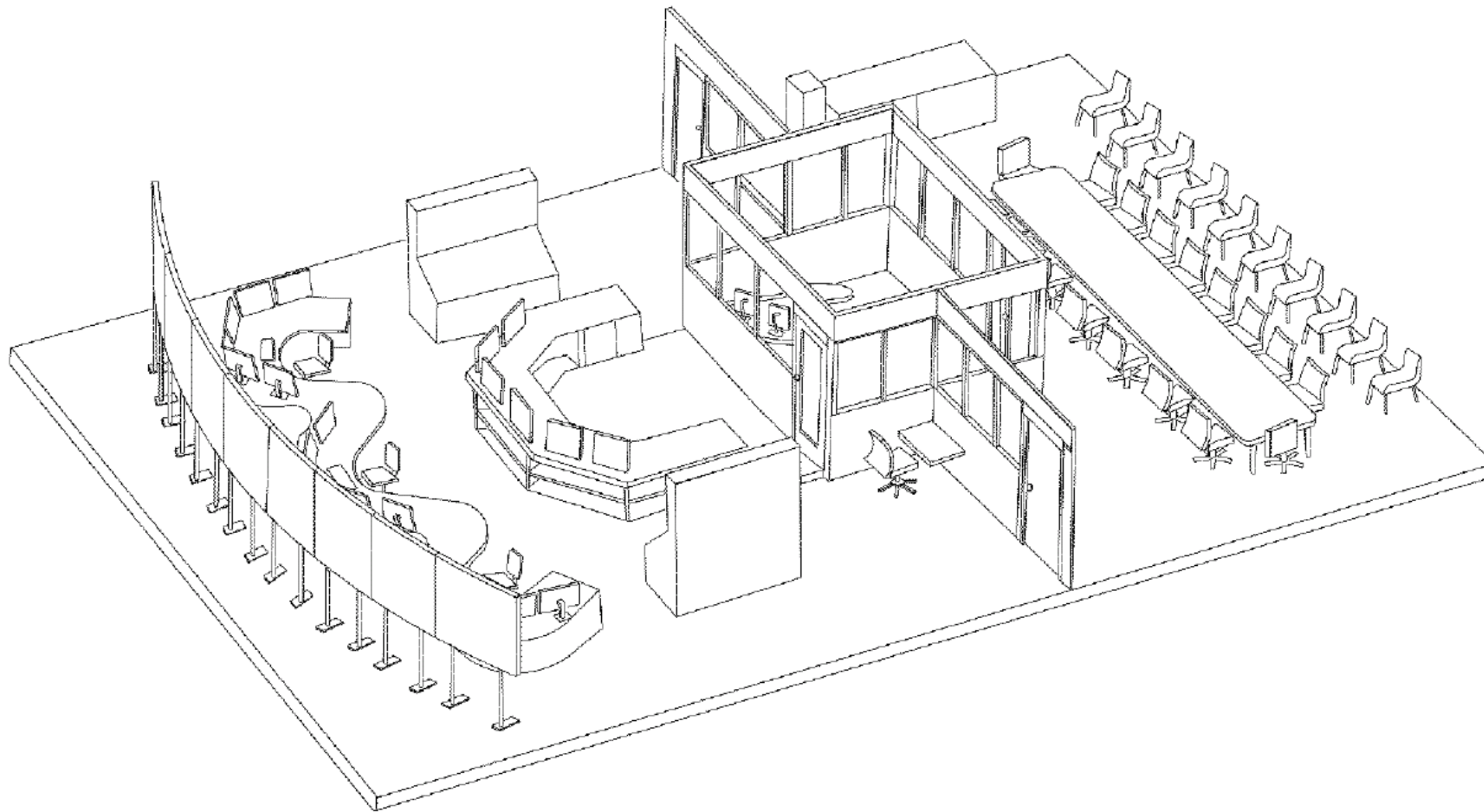
このケースでは、いわばプロダクトの意匠登録の延長線であり、メーカー側が推奨したい使用形態（レイアウト）についての意匠登録と言え、非常に有効であると考えられる。

意匠の『要部』の判断

アメリカでの意匠登録の例

4

Babcock & Wilcox mPower (USD742537S) Control room

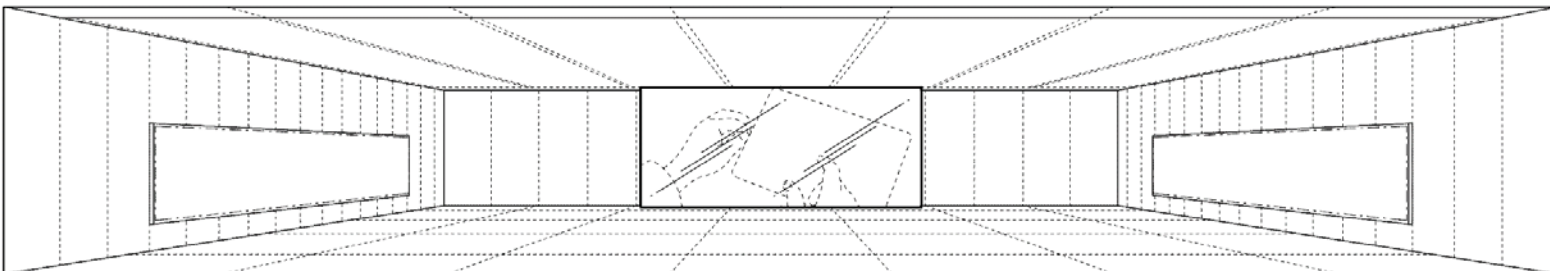
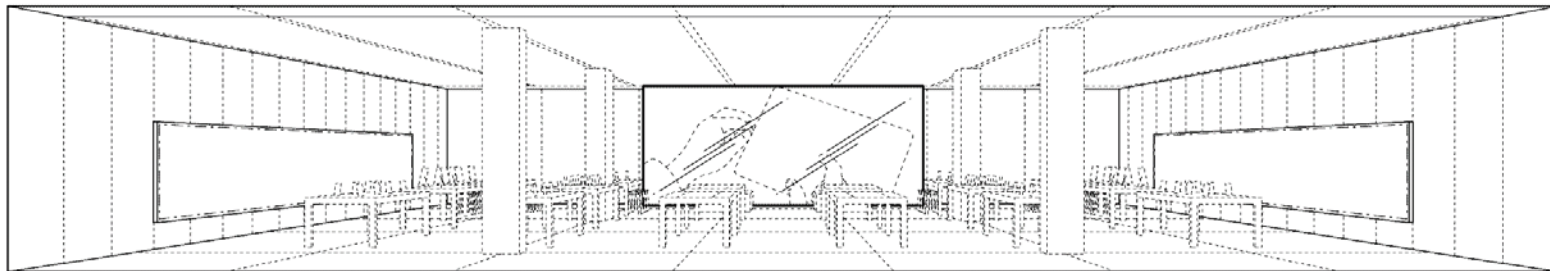


このケースでの要部認定は難解。パーティション、デスク、椅子が複合的に配置されており、その配置が要部なのか？それとも椅子やデスクの数や形が変わると別の意匠となるのか？

現在の保護している『組み立て・・・』との比較

5

apple (意匠登録第1558415号)
組み立て室



- 前述のアメリカの①の事例と同様の図面での意匠登録
- 日本では内装は登録にならないので、『組み立て・・・』という物品名にして、さらに、あくまで組み立て式の部屋であることを物品の説明で補足している
- このようなケースは日本で散見

【意匠に係る物品の説明】本物品は、ビルや家屋内に配置される組立式の室である。組立て室は、左右側面部、背面部、天井部、及び床部とで構成されている。

オフィス業界特有の慣習について

1) 先行事例

- ① オフィスレイアウトについては、業界紙に掲載されるような著名なものでなければ社外に公開されておらず、先行事例を発見することは困難
- ② 同じく、公開日の認定は難しく、無効理由の立証などは可能か

2) 侵害の主体

- ① ユーザーが自身で職場環境を改善しようとし、椅子や机など並び替えなどを行った結果、他者の権利を侵害するようなものとなった場合に、侵害の主体が難しく、什器販売業者なのか、施工業者なのか、実際にそのレイアウトを使用するユーザーなのか、ガイドラインが必要

オフィス業界特有の慣習について

3) 創作者の取り扱い

- ① オフィスづくりにおいて、ユーザーの意見を基にレイアウトなどをつくることがあるが、誰が創作者となるのか。
- ② ユーザーとの共同権利になると他のお客様への提案に使えない。

4) 権利の活用

- ① 商談に併せて提案したレイアウトデザインについて、早期に審査が完了して登録が可能であるとより有効。

We Design Tomorrow. We Design WORK-Style.

